

一、大坂御登米之儀、先年伊藤内膳御加、致相談候様被仰付、諸事加判任、今以津田宇右衛門・岡崎五兵衛御加判形仕候事。

一、諸代官へ入帳判形、伊藤内膳・笹田助左衛門御加跡々判形仕、其後岡嶋甚七・津田宇右衛門御加判形仕候。今程御代官へ入帳、御算用場御印に而相渡候事。

一、御土藏御奉行諸方より上る金銀請取、御奉行手前御算用并金銀御改之刻、前田七郎兵衛御加、私、河北彌左衛門・中村新丞・中村彌五作罷出、相勤申候事。

一、御勝手惣圖之儀、私、河北彌左衛門に被仰付候事。  
一、御在國之年は、御算用場非番に御用之刻は、御城に相詰申候事。

一、御留守中は御寄合日に相詰申候事。

御郡中改作奉行 河北彌左衛門

一、毎年正二月之ケ條より 一、同所に而御下行方迄之ケ條。右同斷。

一、大坂御登米 一、諸代官へ入帳此二ケ條無之。

一、御土藏御奉行 一、御勝手高之二ケ條。右同斷。  
一、御勝手惣圖之儀、園田左七・私に被仰付候事。

一、江戸御上下之刻、新川郡所々御旅屋拵、越後姫川并山下へ人足召連罷越申候事。

一、御留守中御寄合所へ、園田左七に加里相役人之内替々罷出申候事。

御郡中改作奉行 松原八郎左衛門

一、毎年正二月三ケ條より 一、同所に而御下行方之ケ條迄。右同斷。

一、御留守中御寄合所へ、園田左七に加里相役人之内替々罷出申候事。

一、江戸御上下之刻、新川郡所々御旅屋拵、越後姫川并山下へ人足召連罷越申候事。

一、越中御鷹野之刻、相役人之内替々御供罷越、御旅屋に相詰、御郡方諸事御用相勤、晝御辨當所へ罷越掃除以下申付候事。

一、當地御鷹野之刻、被仰渡御座候得ば御供罷越、御郡勢

子人足、御召船御供舟申付、其外御用相勤申候事。

一、往還道筋損申刻、少々之儀は十村共に申付、百姓修理仕候。及大損申候得ば、御郡奉行申談、年寄中へ相達、御納戸銀を以修理有之候。是又往還道筋并宿方川崩申刻は、御郡奉行私共より御普請會所へ申達、役銀を以修理有之候事。

御郡中改作奉行 水上喜八郎

一、右同斷

御郡中改作奉行 中村助左衛門

一、右同斷

御郡中改作奉行 毛利又太夫

一、右同斷  
右私共相勤申御用品々如此御座候。以上。

寛文九年正月廿六日 園田左七

松原八郎左衛門

河北彌左衛門

水上喜八郎

中村助左衛門

二六 改作奉行動方覺

毛利又太夫

私共相勤申御用品々書記申帳

一、御郡中改作方之儀、先年村々改作に被仰付候刻より、品々古格を以相勤、勿論其時々様子に隨ひ會議仕、夫々申付候。然者寛文元年御印を以御書立被下置候趣を請、諸百姓手前收納方并免相指引、且又改作之格に違申百姓籠舎或追出或入替等、私共に御任せ置被成候間、無遠慮支配可仕候。殺害之儀は言上可仕旨依被仰渡、今以右之通裁許仕申候事。

一、毎年正二月御郡中御扶持人并十村共御算用場へ呼出、百姓持高應、人馬・農道具致所持、耕作仕入十村組々吟味仕、何とぞ尤之品有之手據申者御座候得ば、御算用場御奉行相談仕、御米貸渡、作用意爲仕申候。且又田地出入等承届、夫々落着申付候事。

一、耕作やしなひ仕入之爲、御銀百貫目役銀御奉行に御預置候付、仕入不足之村々吟味仕、右銀子貸渡、至暮取立爲